学校番号	４１４

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学ＩA演習	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書							
副教材等	新課程　リンク　数学演習　Ⅰ・Ａ　（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・秋頃までに数学ＩＡ全般の基礎・発展的な内容を総復習します。授業内だけでは課題に取り組む時間が十分に取れないので、復習・予習などの家庭学習もしっかり行って下さい。
・1 回目にできた問題とできなかった問題を、印をつけて把握し、できるまで取り組み、理解しましょう。
・問題数をこなし、解き方を理解する勉強方法を身につけましょう。
・わからないことはわからなかった３日以内に友人に聞いたり、先生に質問するよう心がけてください。わからないところを放置しないこと。
・力をつけるにはコツコツと地道な努力が必要です。頑張りましょう！

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。
【思考力、判断力、表現力等】
事象を論理的に考察する力，事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力，事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力をつける。
【学びに向かう力、人間性等】
粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付ける。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数と式，図形と計量，2 次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現･処理したりする技能を身に付けるようにする。	命題の条件や結論に着目し，数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力，図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を表，式，グラフを相互に関連付けて考察する力，社会の事象などから設定した問題について，データの散らばりや変量間の関係などに着目し，適切な手法を選択して分析を行い，問題を解決したり，解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	数と式	1 式の展開 2 因数分解 3 平方根と式の値 4 2 重根号,絶対値の扱い 5 1 次不等式の応用 6 絶対値を含む不等式	a:因数分解を行うのに，文字のおき換えを利用することができる。絶対値の意味と記号表示を理解している。 b:式を１つの文字におき換えることによって，式の計算を簡略化することができる。 根号を含む式の計算について，一般化して考えられる。 c:式の変形，整理などの工夫において，よりよい方法を考察しようとする。	ノートやワークシートの記述･定期考査	ノートやワークシートの記述・定期考査	ノートやワークシートの記述･授業態度
	集合と命題	1 集合 2 命題と条件 3 命題の証明(1) 4 命題の証明(2)	a:必要条件，十分条件，必要十分条件，同値の定義を理解している。 b:命題の真偽を，集合の包含関係に結び付けてとらえることによって考察することができる。 c:命題と条件の違いや，命題と集合との関係について，積極的に理解しようとする。	ノートやワークシートの記述･定期考査	ノートやワークシートの記述・定期考査	ノートやワークシートの記述･授業態度
	場合の数と確率	1 集合の要素の個数 2 順列,円順列 3 組合せ 4 同じものを含む順列 5 確率 6 反復試行の確率 7 条件付き確率 8 期待値	a:組合せの総数を記号で表し，それを活用できる。また，組合せの公式を理解し，利用することができる。 b:順列の総数をもとにして，組合せの総数を考察することができる。 c:組合せの考え方を利用して図形の個数や同じものを含む順列の総数などが求められることに興味・関心をもつ。	ノートやワークシートの記述･定期考査	ノートやワークシートの記述・定期考査	ノートやワークシートの記述･授業態度

	2次関数	1 放物線の平行移動・対称移動 2 2次関数の最大・最小 3 2次関数の決定 4 2次不等式の解 5 2次関数の応用 6 2次方程式の解の存在範囲	a:2次関数の決定において，与えられた条件を関数の式に表現し2次関数を決定することができる。 b:2次関数の決定において，条件を処理するのに適した式の形を判断することができる。 c:2次関数の決定条件に興味，関心をもち，考察しようとする。	ノートやワークシートの記述・定期考査	ノートやワークシートの記述・定期考査	ノートやワークシートの記述・授業態度
2学期	図形と計量	1 三角比の相互関係 2 正弦定理と余弦定理の応用(1) 3 正弦定理と余弦定理の応用(2) 4 三角形の面積と内接円の半径 5 円に内接する四角形の面積 6 空間図形への応用	a:$0^\circ \leqq \theta \leqq 180^\circ$ において，三角比の値から θ を求めることができる。また，1つの三角比の値からの残りの値を求めることができる。 b:鋭角の三角比を，鈍角の場合に拡張して考察することができる。直線と x 軸とのなす角を，三角比を用いて考察することができる。 c:三角比を鋭角から鈍角まで拡張して考察しようとする。三角比が与えられたときの θ を求める際に，図を積極的に利用しようとする。	ノートやワークシートの記述・定期考査	ノートやワークシートの記述・定期考査	ノートやワークシートの記述・授業態度
	データの分析	1 データの代表値 2 箱ひげ図 3 分散と標準偏差 4 散布図 5 相関係数	a:分散，標準偏差の定義とその意味を理解し，それらに関する公式を用いて，分散，標準偏差を求めることができる。 b:変量の変換によって，平均値や標準偏差がどのように変化するかを考察することができる。 c:変量の変換によって，平均値や標準偏差がどのように変化するか，考察しようとする。	ノートやワークシートの記述・定期考査	ノートやワークシートの記述・定期考査	ノートやワークシートの記述・授業態度
	図形の性質	1 三角形と線分の比 2 円と直線(1) 3 円と直線(2) 4 正多面体	a:チェバの定理，メネラウスの定理を理解している。 b:チェバの定理，メネラウスの定理について，論理的に考察し，証明することができる。 c:三角形の辺と角の大小関係という明らかに見える性質を，論理的に考察しようとする。	ノートやワークシートの記述・定期考査	ノートやワークシートの記述・定期考査	ノートやワークシートの記述・授業態度

	数学と人間の活動	1 整数の性質(1) 2 整数の性質(2)	a:素因数分解を利用して最大公約数・最小公倍数を求める方法を理解している。 b:身近な事象について数学的に捉え，最大公約数・最小公倍数との関係について考察することができる。 c:「干支」という身近な用語について，最小公倍数との関連を見つけて考察しようとする。	ノートやワークシートの記述・定期考査	ノートやワークシートの記述・定期考査	ノートやワークシートの記述・授業態度
3学期	補充問題	1 1次不等式の応用 2 命題と条件 3 2次関数の応用 4 正弦定理と余弦定理の応用	a:2次関数の定義域に制限がある場合に，最大値，最小値を求めることができる。 b:定義域が変化するときや，グラフが動くときの最大値や最小値について，考察することができる。 c:日常生活における具体的な事象の考察に，2次関数の最大・最小の考えを活用しようとする。	ノートやワークシートの記述・定期考査	ノートやワークシートの記述・定期考査	ノートやワークシートの記述・授業態度
	補充問題	5 箱ひげ図、散布図 6 条件付き確率 7 円と直線 8 整数の性質	a:分散，標準偏差，散布図及び相関係数の意味やその用い方を理解している。 b:データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察することができる。 c:事象をデータの分析の考えを用いて考察するよさを認識し，問題解決にそれらを活用しようとしたり，粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。	ノートやワークシートの記述・定期考査	ノートやワークシートの記述・定期考査	ノートやワークシートの記述・授業態度

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度